

5歳児 ほし組 保育指導案

指導者 石塚のり子

子どもたちが見つけた遊びに主体的にかかわる中で、「これはどう？ それいいね」というキーワードと友だちに思いや考えを言葉でつなげる教師のはたらきかけは、協同的な遊びを深めていくために有効であったか。

1 活動名 これはどう？ それいいね

2 第9期前半（10月下旬～11月下旬）の保育の構想

(1) 本学級の子どもの姿

個性豊かで、好奇心が旺盛な子どもが多く、全体的に明るく活発である。1学期から、泥や草花、生き物など園庭の自然とかかわって遊ぶ姿が多く見られた。その中で、「固い泥だんごや色のついた泥だんごが作りたい」「みんなが入れる大きい温泉が作りたい」等、自分の願いやめあてをもって遊ぶ姿が見られた。特に、泥んこ温泉づくりでは、はじめは全身泥だらけになりながら、数人の友だちと一緒に楽しむだけだったが、次第に友だちと協力して深い穴を掘ったり、水の流し方を「山の頂上から流してみようよ」と友だちに自分の考えを伝えたりしながら数人の友だちとかかわって遊ぶことができるようになった。また、真砂土で作った温泉と砂場の砂で作った温泉の感触の違いや、穴の深さや日の当たり方で異なる水の温かさや冷たさを感じながら、「なぜだろう？」と考える姿も見られた。

生き物が好きな子どもたちは、毎日のように園庭で虫探しをしていた。学級でもザリガニ、カメ、ドジョウ、バッタ、カエル等、自分たちで水替え等の世話をしたり、「何を食べるのか」を調べてきたりする姿が見られた。生き物に気持ちを寄せ、その生き物になりきって遊んだり、生き物を自分たちのしている家族ごっこの家族としたりお化け屋敷ごっこにバッタお化けを登場させたりと遊びに取り入れる姿も見られた。さらに、飼っていた生き物の死と向き合ったり、新しい命の誕生にもふれたりして生命の大切さにも気づいていた。

運動会に向けては、「かけっこがしたい」「リレーがしたい」など遊びの中でも積極的に取り組んでいた。中でもリレーは、学級にバトンを置いておいたところ「これ、リレーに使うのでしょ」とすぐに持ち出し、友だちと相談してコースを決めたり、チームを分けたりして主体的に遊んでいた。なわとび等自分が苦手を感じていることに対しても挑戦する姿や友だちと励まし合いながら取り組んだりする姿も見られた。運動会をとおして、学級や学年の友だちみんなで力を合わせて一つのことに取り組むことや幼稚園全体で協力して取り組む楽しさを経験することができた。

学級での伝え合う場では、自分が見つけたことやもの、していた遊びを友だちに伝えたいという思いをもっている子どもが多く、友だちの前で進んで伝えようとしていた。また、友だちがしていた遊びや見つけたことやもの話を聞くことで「次は自分もやってみよう」と関心をもつ子どもも多い。反面、興味を感じないことについては聞こうとしない姿や遊びが長続きしない姿、困難なことに出会うとあきらめてしまう姿も見られた。そこで教師は、友だちの良さや思い・考えに気づいたり、子どもの遊びが継続したりしてほしいと願って、「学級での伝え合う場」が充実するように工夫してきた。具体的には、子どもたちが友だちに伝えたいことを可視化するため、写真や絵を使って掲示したり、子どもたちが見つけた遊びの「ほし組さんのいいものみつけた」の園庭マップを作成したりした。伝えたい内容によっては、学級の部屋だけでなく園庭で行うなどの場所の工夫もした。その結果、友だちがしていたことに気づき、興味や関心がなかったことにも目が向くようになり、遊びが一度途切れてもまた継続したり、少しずつ発展していったりするようになりつつある。

(2) 9期前半（10月下旬～11月下旬）のねらいと経験してほしい内容・ねらい設定の意図

9期前半は、8期で学級や学年の仲間と一緒に一つのめあてに向かって、やり遂げる経験をした子どもたちが、自分たちの力で協同的な遊びをしていく時期であると捉えている。子どもたちが自分の考えや願い・めあてをもち、友だちと一緒に思いを共有しながら、考えを出し合ったり、試行錯誤したりする中で、協力しながら遊びを継続させていってほしいと願っている。このことが、11年間の思考力・判断力・表現力の育ちへとつながっていると考える。11月26日には、園行事「子どもまつり」を行う。これは、子どもたちのイメージでおまつりの活動を創り、当日はおうちの人も招いて園全体でのおまつりを楽しむものである。今年度は、地域で経験している秋祭りの文化や昨年度の「附属幼稚園の子どもまつり」の経験や園庭の環境や自然をいかし、願いや見通しを具体的にもちながら、意欲的に活動に取り組んでほしいと願っている。そこで、9期のねらいと内容を次のように設定し、活動を展開していく。

9期前半のねらいと内容

ア. 自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えを受け止めたりしながら、友だちと一緒に共通のめあてに向かって遊びを進める楽しさを味わう。(意欲・追求力・友だちとかわる力)

- ・役割を分担したり、相談したりして、友だちと一つの活動を進める。
- ・友だちと気持ちを合わせて遊んだり生活したりする心地良さを味わう。
- ・友だちとルールのある遊びを楽しむ。
- ・少し難しいことでも、あきらめずにやり遂げようとする。

イ. 秋の自然にふれ、自然物の特長を生かした遊びを楽しむ。(環境とのかかわり・知的関心)

- ・季節によって園庭にいる生き物の違いや過ごし方に関心を持ち、友だちと一緒に捕まえたり世話をしたりする。
- ・自然の変化に気づいたり、美しさを感じたりしながら気づいたことを友だち同士・学級全体で伝え合う。
- ・自然物を集めたり、分けたりして色や形の違いに気づき、それを生かして遊びに取り入れようとする。

ウ. 自分たちの目的をもって、工夫して創り上げる喜びを感じる。(創造性・表現)

- ・自分たちのイメージや目的を実現するための素材や適切な材料を考えて使ったり、自分なりのやり方を考えたりする。

(3) 9期前半（10月下旬～11月下旬）の環境の構成と教師のはたらきかけ

環境の構成

- 「学級で伝え合う場」では、一つ的话题を共有して、自分の遊びと関連して話したり、聞いたり、考えたりするよう援助する。
- 遊びを継続したり、「宝物」を学級で共有したりするために、7期に行った「ほし組さんのいいものみつけた」の園庭マップを、8期では子どもたちからの提案を生かして、「宝物マップ」として作ったものを学級に掲示しておき、9期でも継続して伝え合う場で活用する。
- 子どもたちが、遊びのイメージが膨らむきっかけになったり、自分の遊びによりふさわしいものを選んだりすることができるよう秋の自然物やお祭りの絵本等のコーナーを設けておく。

教師のはたらきかけ

○「ねらいア」に対してのはたらきかけ

自分で見つけた発見や疑問・発想したことが友だちと一緒に自分で解決・実現できるように見守ったり提案したりし、やりとげた（追求できた）満足感がもてるように支えていく。また、友だちの思いや発想、頑張っている姿、良さに気持ちが向けられるように学級で共有する時間を工夫したり、それぞれのみつけた遊びをつないでいったりし、触発されたり認め合ったりできる友だち関係を築いていく。友だちとのトラブルの場面では、お互いの言動をしっかり振り返られるように時間をとり、友だちの思いを受け止めることができるようにする。その上で折り合いをつけることができるように援助したり、解決策を共に考えたりしていく。

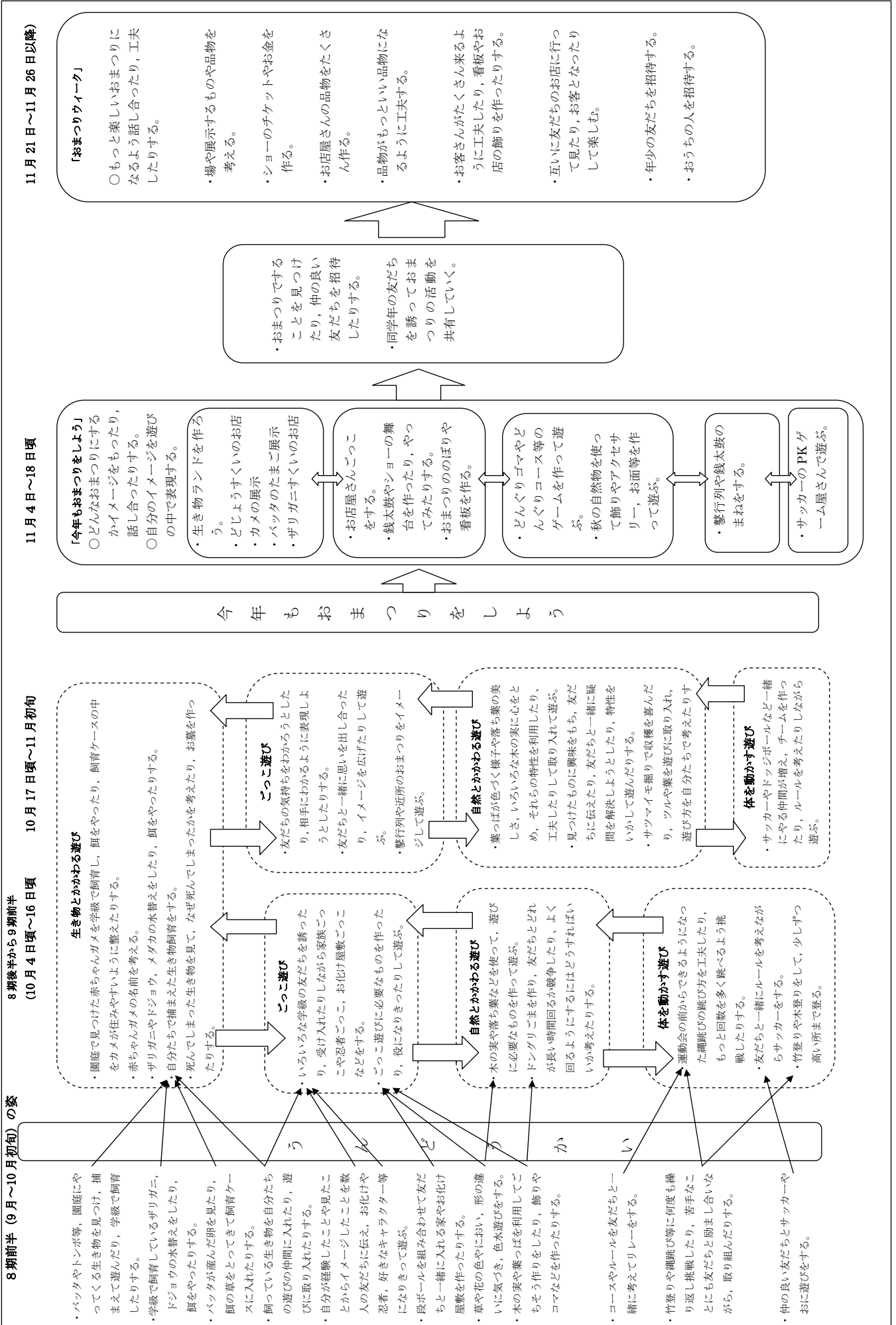
○「ねらいイ」に対してのはたらきかけ

生き物の生態や成長に気づき、飼育しようとしている姿や秋の自然物を遊びに取り入れようとする姿を十分に認めながら、必要に応じて保育者の気づきを伝えたり、遊び方を提案したり、よりふさわしいかわり方を示唆したりしていく。

○「ねらいウ」に対してのはたらきかけ

それぞれの共有する活動のイメージが実現できるように用具や材料と一緒に探したり、一人ひとりの発想のおもしろさを十分認めたりしながら、友だちと相談したり役割分担したりして遊びをつくりあげていけるように支えていく。

3 予想される幼児の主な活動の展開 以下に8期で見られた主な活動と9期前半で予想される主な活動の展開を示す。この予想は、子どもが生活を創っていく主体性を尊重した予想である。



4 本日の生活について

(1) 本日のねらい

自分の考えを友だちに伝えたり友だちの考えを受け止めたりしながら、附属幼稚園のおまつりをする事への期待をもち、自分なりのおまつりのイメージを遊びの中で表現していく。

(2) 予想される生活の展開

8:45 登園

9:00 げんきこタイム

9:10 学級で共有する活動① 「子どもまつり」のことを話し合おう

経験してほしい内容
○…伝え合いにつなげたい姿、見取りと価値づけの観点

教師の支援と願い
◎…伝え合いのためのはたらきかけ

こんなおまつりがしたいな

- 松江の文化行事である藝行列や秋まつりに参加した経験や昨年の「附属幼稚園子どもまつり」の遊びを思い出したり、友だちの話を聞いたりして、自分なりの「おまつり」のイメージや意欲をもつ。
- ・「こんなことしたいな」「こんなふうにして遊びたいな」と自分が考えていることをみんなに伝える。

- ・子どもの一人ひとりのおまつり経験やその時の思いを十分に引き出すゆとりをもつ。
- ・おまつりのイメージや子どもらしい発想を十分に認め、「附属幼稚園の子どもまつり」への期待を膨らませる。
- ・子どもの考えた「子どもまつり」のイメージや考えについて、一人ひとりの発想のおもしろさを受け止め、十分に認めていく。また、友だちの話や身体表現を認めながら、気持ちに応じた場の環境を構成する。

発問①「附属幼稚園のおまつり」ってどんなことがあったの？先生に教えて。

- ・ショーをやった ・金魚すくい屋さんがあった
- ・どんぐりゴマのお店があった ・おぼけやしき ・お面屋さんがあった ・どんぐりコースもあった
- ・おみこしやのぼりがあった ・相撲をした

発問②今年の「子どもまつり」はだれがするのかな？

- ・ぼくたち！ ・わたしたち！ ・ほしさん！ ・ようちえんのみんなです ・つきさん

発問③みんなはおまつりでどんなことをしたいかな？

- ・ショー（安来節）がしたい ・お化け屋敷が作りたい ・忍者ごっこをしたい
- ・お店屋さんを作ろうよ（色水ジュース屋さん、どんぐりゴマ屋さん、お面屋さん、アクセサリー屋さん）
- ・生き物ランドを作ろうよ

○やりたいおまつりの遊びにどんなものが必要か、具体的に考えたり、やりたい友だち同士で、具体的な話し合いをしたりする。

9:40

- おまつりの大まかなイメージをもって、友だちと一緒に考え、すぐに必要なものを見つけに行ったり、それを使って作ろうとしたりする。
- ・自分たちの遊びのイメージにふさわしい物や自然物を選ぶ。
- ・いろいろな物や自然物の特長を生かして作る。
- ・保育室にあるいろいろな材料を見つける。

- ・子どものイメージや思いを大切にしながら、材料選びや方法の選択について丁寧に相談にのるようにする。
- ◎工夫したり頑張ったりしている姿、できた喜びなどその時の子どもの様子や気持ちを受け止め、共感する。
- ・同じ目的をもつ子ども同士がおまつりのあそびをすすめていけるような時間や場所、材料を用意しておく。
- ◎遊びたい気持ちや子どもらしい発想を十分に認め、意欲をもって取り組めるようにする。
- ・必要があれば、一緒に遊んでいる子どもたち同士で伝え合う場をもち、考えを出し合わせ相談させることで、問題が解決できるように導いていく。
- ・うまくいかずに困っている場面があれば、どうしたらいいのかを共に考えたり、友だちに聞いてみるなどの提案をしたりする。
- ・おまつりごっこのイメージを表現している姿を認め、おまつりへの意欲につなげていく。
- ・一人で遊びに取り組む子、同じ興味をもった子どもと一緒に取り組む姿を認め、その時の気持ちや思い、考えなどを学級の友だちに伝えていく。

- 自分のやりたいおまつりのイメージをとりあえずやってみる。
 - ・今までやっていた遊びから、年少さんやつき組さんにも見せてあげたいことをやってみる。
- E.X. 銭太鼓、お店屋さん、お化け屋敷、生き物ランド等

- ・おまつりの遊びのイメージとは関わりなく自分の遊びを続ける。
- E.X. サッカー、竹登り、家族ごっこ、折り紙等

- ・自分のまつりのイメージがはつきりせず、なんとなく遊ぶ。

- ・自分なりに考えをめぐらせる。

- ・その子の気持ちの動きをじっくりと見ながら、友だちがやっている遊びと一緒に見に行ったり、遊びに誘ったりなど必要なかわりや援助をする。
- ・本日は、自分のやりたい遊びに取り組みながらも、周りの子どもたちの遊びに目を向けたり、おまつりの遊びへの興味をもったりする姿を認める。
- ・自分の気持ちが自発的におまつりに向かっていくまでの時間を保障する。

10:20 片付け

- ・次の日も遊びが続けられるような片付けの仕方を子どもたちと相談しながら決めていく。
- ・自分の使っていないものだけでなく、友だちが使っていたものを手伝って片付けたり、最後まで頑張って片付けたりしている姿を認めていく。

10:35 学級で共有する活動②

- どんな遊びを考えのか、みんなに教えてあげよう！
- ・自分がしたおまつりの用意や遊びをみんなに伝える。
 - ・自分が思ったことなどをみんなに伝える。
 - ・明日の遊びに必要なものを考えたり、話したり、自分のめあてをもつ。

- ・子どもにどうしてその遊びをしようと思ったのかを投げかけ、子どもたちがどんな思いや考えでその遊びをしているのか、みんなに伝えるようにする。
- ・遊びの中でうまくいかずに困っていることがあれば、みんなで一緒に考えていけるようにする。
- ・カレンダーを見せ、これから11月26日までおまつりの用意をしたり、面白くなる工夫をしたりしていこうと伝え、大まかな活動の見通しをもたせる。